

十和田市立 新渡戸記念館だより



◀今年は5年に一度の太素行列開催の年でした。これは万延元年(1860)の南部盛岡藩主・利剛公の三本木原開拓地視察を再現したものです。

撮影：十和田市総務課広報広聴係



太素行列の花形、三本木高校生徒による奴踊り▶

平成15年度 太素祭開催 5月3日～5日

稲生川上水145年記念太素祭が太素塚境内を中心に5月3日～5日まで行われました。近年まれに見る好天で、3日間で約35,000人の人出がありました。記念館ではクイズ大会を行い入館者は前年度比1割アップの約3,500人となりました。

評価が高まった太素ウォーク

平成13年度から十和田市・十和田市観光協会・十和田商工会議所共催、十和田青年会議所の協力で稲生川の流路を歩く「太素ウォーク～桜、青嵐、開拓の大地を歩く～」を開催していましたが、3年目となった15年度からは「水土里の路(みどりのみち)ウォーキング」として、東北農政局相坂川左岸農業水利事業所、県農村整備課、水土里ネット青森(青森県土地改良事業団体連合会)、水土里ネット稲生川(稲生川土地改良区)が共催団体として加わり、開催することとなりました。「水土里の路ウォーキング」は、農水省の企画による農村整備PR事業で、農業用水の役割や大切さ等についてウォーキング体験を通して学ぶものです。コースは、景観や歩きやすさ、歴史的、文化的な意味、見学施設の有無などを基準に各都道府県につき原則として1ヶ所が選ばれます。



◀今年の太素ウォークには、昨年より100人程多い230人が参加しました▶

3年目をむかえたクイズ大会

記念館では太素祭記念クイズ大会「クイズで探検!ニトちゃんとおそぼう!!」を開催し、参加者871名中109名の方が全問正解しました。5月6日から1ヶ月間館内に全問正解者のお名前を掲示するとともに、抽選で30名へ記念館出版物1冊かニトちゃんキーホルダーを贈呈しました。他県からクイズ大会に参加され、キーホルダーが当たった人からは「思いがけなく当選し、旅の良い思い出となりました」との手紙や電話もいただきました。



今年のニトちゃんキーホルダー

3日間すべて晴の太素祭は20年ぶり!

今年の太素祭は3日間すべて快晴でした。青森地方气象台に問いあわせたところ、このような快晴は1983年以来のようです。ここ20年間、太素祭は少なくとも1日は雨や強風の日があり、ひどい年は3日間雨の時もありました。

晴天でにぎわった太素祭の様子▶





太素顕彰会顧問・新渡戸稲子さん逝去

当館の運営母体・太素顕彰会の顧問である新渡戸稲子さんが5月22日逝去されました。(享年85歳)稲子さんは新渡戸稲造博士のいとこ・新渡戸訓氏の長女として大正8年(1919)に生まれ、昭和40年(1965)当館開館と同時に館長に就任。平成7年(1995)まで通算約20年間館長を務め、平成7年にはその功績から財団法人日本博物館協会より顕彰者として表彰されました。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

～ 平成15年8月1日～9月30日開催予定 ～
稲生川上水145年記念企画展

木々は見えていた

— 樹木が語る十和田の歴史 —

稲生川上水145年記念として8月1日から9月30日まで、企画展「木々は見えていた～樹木が語る十和田の歴史～」を開催します。十和田市は1万3,000年前の十和田火山(後の十和田湖)の噴火で形成された三本木原台地に広がっています。市内に残る埋没林「小田の万年木」は火砕流でなぎ倒された姿のまま、噴火のすさまじさを今に伝えています。樹齢700年を数える古木は、地域のご神木であるとともに、私たちの知らない中世の十和田を知る生き証人です。市内の公園の緑や街路樹も、元は幕末の三本木原開拓で盛んに植えられた防風林であったり、様々な由来を秘めています。時代をこえて私たちを見守り、生きつづける樹木。その樹木を語りべに、十和田市の歴史を紹介する企画展です。

(通常観覧料で常設展と企画展両方ご覧頂けます。)

※十和田市民は常に観覧料無料)



▲幕末に防風林として植えられた樹木も、今は公園の緑に。(三本木中学校前)

北海道大学施設部で

新渡戸万里夫人ゆかりの ハルニレに解説板設置



▲ハルニレの大木と解説板

昨年11月北海道大学施設部では、大学構内に残る新渡戸万里夫人寄贈のハルニレの脇に、由来をしるした解説板を設置しました。新渡戸稲造は明治24年(1891)アメリカで万里夫人(旧姓メリー・P・エルキントン)と結婚後、札幌農学校(現北海道大学)の助教として赴任し、夫人とともに札幌に移り住みました。稲造は学科の指導だけでなく、寮の舎監などもつとめ、夫人も学生の指導に協力しました。仕事の忙しさのため夫妻ともに体調を崩し、明治30年(1897)カリフォルニアへの転地療養を余儀無くされた後も、夫妻は学生のことを忘れませんでした。万里夫人は北海道大学の校舎新築に際してハルニレ24本を寄贈し、これらの樹木は稲造の親友だった植物学者・宮部金吾教授の指導のもと、構内各所に植樹されました。正門附近に植えられたうちの5本が北大事務局前に残っており、解説板が設置されました。

解説板に当館より新渡戸稲造夫妻の写真(五千円札肖像の基となったもの)を提供しました。



新収蔵資料紹介

邦文『武士道』ほか新渡戸稲造関連資料

新渡戸稲造関連資料として、著書『BUSHIDO—the soul of Japan—』の最初の日本語訳、『邦文 武士道』(明治41年・1908年出版)初版本、ならびに執筆雑誌等11点の資料を収集しました。

明治41年発行

『邦文 武士道』初版本

新渡戸稲造の著書『BUSHIDO—the soul of Japan—』(明治33年・1900年アメリカで出版)の最初の日本語訳、『邦文 武士道』(桜井彦一郎訳/丁未出版社/明治41年・1908年出版)初版本を収集しました。桜井彦一郎(嶋村)は津田梅子とともに津田塾大学の創設に関わった人物で新渡戸稲造と交流があり、『邦文 武士道』も稲造自身から直接校閲を受けています。現在まで多くの邦訳がでていますが、いずれも稲造没後の出版で、稲造自身が目を通した邦訳は桜井によるもののみです。同書は現在新渡戸稲造コーナーに展示しています。

『邦文 武士道』桜井彦一郎 訳
丁未出版社・明治41年出版・初版



新渡戸稲造執筆雑誌『婦人世界』

東京女子大学初代学長をつとめるなど、女性教育に尽力した稲造は、婦人雑誌にも積極的に執筆しました。この度収集した『婦人世界』にも「一人の女があった」の書出しから始まるエッセイを寄稿しており、毎回一人の女性の身の上話をモチーフに、女性の人生について語っています。稲造は「紹介する女性は全て実在の人物」としており、読み物としてもおもしろく、読者に好評で、大正8年(1919)にはそのエッセイをまとめた『一人の女』を出版しています。また、この度収集した『婦人世界』第5巻10号(明治43年9月1日発行)には「再婚の可否につきて某教師に答ふ」と題し、手紙での悩み相談への回答もおこなっています。当時稲造は『婦人世界』の発行元、実業之日本社の編集顧問をしていました。

新渡戸稲造が顧問をつとめた

日本両親再教育協会のパンフレット

日本両親再教育協会は、明治から昭和にかけて活躍した日本の先駆的心理学者・松本亦太郎を会長に、アメリカにおいて両親教育の実際を学んだ上村哲弥(後の日本女子大学児童研究所所長)を主幹として立ち上げられ、昭和3年(1928)、児童教育のための実用的な研究全集『子供研究講座』全十冊の刊行を開始しました。今回、同講座の趣旨など詳細に記した『講座予約募集内容見本』の

パンフレットを収集しました。新渡戸稲造は、後藤新平とともに日本両親再教育協会の顧問をつとめており、稲造は「両親及び家庭」の項目で“親の道”と題して執筆しています。



▲パンフレット表紙、裏表紙



▲この度収集した実業之日本社発行『婦人世界』9冊
第5巻 10号(明治43年)
第11巻 3号 5号 14号(大正5年)
第13巻 2号 3号 5号 13号 14号(大正7年)

トピックス

この石なあに？ —太素塚に残る稲生橋の石垣—

太素塚奥のしげみの中に、古びた石が数個ひっそりと置かれています。縦、横、高さ40~60cmのこの石の、いわれを知る人も少なくなりました。これは万延元年(1860)新渡戸十次郎が架設した初代の「稲生橋」をささえていた石垣です。橋の架け替え工事の時に取壊され、これらの石が記念として太素塚に運ばれました。みなさんの身の回りにも、意外な歴史を秘めたものがあるかもしれませんね。



関連情報

◆2003年改訂の市勢要覧に当館資料写真を多数収録

十和田市では2003年改訂「十和田市勢要覧～緑輝く、十和田の情景～」を発行し、十和田市発展の基礎を築いた三本木原開拓の歴史と、国際人新渡戸稲造の業績について、当館資料写真を多数収録する形で紹介しています。この度の市勢要覧作成のためには当館所蔵の慶応元年検



三本木原開拓に、すべてをかけた魂

地大絵図や南部領内絵図など長さが3メートル以上にも及ぶ絵図面についても、文化センター大ホール壁面に吊るし、撮影を行いました。

◀三本木原開拓紹介のページ

◆太素塚・春の清掃奉仕

- 4/19 小さな親切運動 4/24 十和田東ロータリークラブ
- 4/29 本瀬戸山老成会 5/5 済誠会・アSENDハウス
- 5/9 大学通り老成会 ありがとうございます

◆拓殖大学にて後藤新平・新渡戸稲造記念「国際協力・国際理解作文コンクール」を実施

拓殖大学および同学後援会の主催で「第五回～後藤新平・新渡戸稲造記念～国際協力・国際理解作文コンクール」を5月20日から8月30日まで実施中です。当館も後援団体となっています。新渡戸稲造は大正6年から11年まで拓殖大学の学監を、後藤新平は大正8年から亡くなる昭和4年まで学長を務めました。作文の応募詳細は拓殖大学広報室「第5回拓殖大学作文コンクール」係にお問合せ下さい。
web_pub@ofc.takushoku-u.ac.jp http://www.takushoku-u.ac.jp

◆平成14年12月1日～平成15年6月30日の来館小学校 〈十和田市〉東小学校〈三沢市〉三川目小学校〈三戸町〉三戸小学校(野辺地町)有戸小学校〈横浜町〉南部小学校

活動報告

◆館長講演会

- 5/30 柏葉大学開校式講話 (七戸町公民館)
- 6/6 十和田税務署郷土史研修会 (十和田税務署)

〈編集後記〉

3日間好天に恵まれた太素祭は久しぶりでした。太素ウォークも定着し、さらに発展の兆しがある事を喜ばしく存じます。資料保存のための裏打ち作業も順調に推移し「市民の家」は百年後も大丈夫の感がいたします。

◆博物館関係会議等へ館長出席

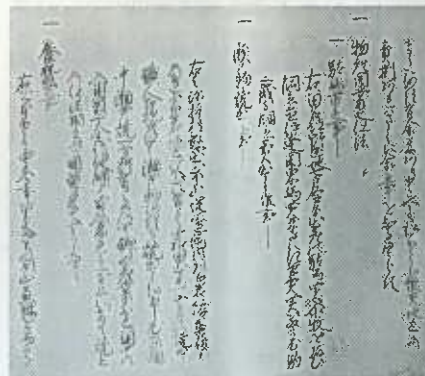
- 5/20～21 日本博物館協会東北支部総会研修会(福島市)
- 6/10 青森県立郷土館協議会(青森市)
- 6/25 青森県博物館等協議会理事会・総会(青森市)

◆太素顕彰会理事会・評議員会開催

3月18日10時から十和田市民体育センター2階研修室において平成14年度第二回太素顕彰会理事会・評議員会を開催し、平成15年度予算案ならびに事業計画案が承認されました。

◆平成14年度分裏打ち完了

昨年度は安積疏水や那須用水の工事に国の技師として関わった新渡戸七郎の資料を中心に22点を裏打ちしています。また、今回の裏打ちでは、綴り形態の資料で、虫食いがはげしくそのままの保存が難しいものも裏打ちを行い、再度綴りなおしました。



虫食いがはげしくそのままの保存が難しいものも裏打ちを行い、再度綴りなおしました。

◀裏打ちが済んだ『三本木平開業之記』(万延元年/1860)

◆十鉄電車へ記念館PR壁面広告2種類を掲示

4月25日より、十和田観光電鉄株式会社の協力で、当館PR用電車内壁面広告を三本木原開拓と新渡戸稲造のテーマで2種各3枚作成し、十和田市～三沢間を走る車両に掲示しました。



◀三本木原開拓(上)と新渡戸稲造(下)をテーマとした記念館PR壁面広告

発行 太素顕彰会
 十和田市立新渡戸記念館
 ☎034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
 TEL (FAX) 0176-23-4430
 E-mail: nitobemm@hi-net.ne.jp
 http://www.towada.or.jp/nitobe/
 印刷 有限会社 岩間印刷所